

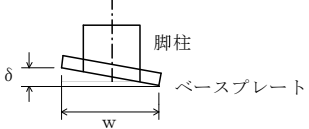
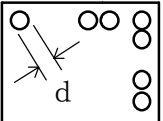
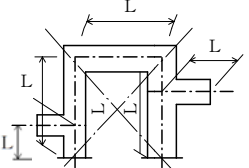
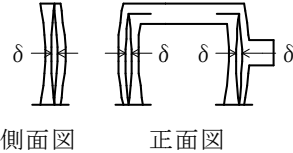
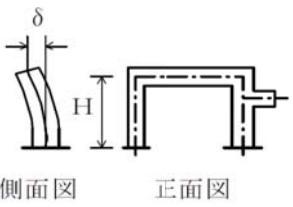
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8	1	3	2		遮音壁支柱製作工	部 材 部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
8	1	9	6		現場打函渠工	基 準 高 ∇	± 30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。	
					厚 さ $t_1 \sim t_4$	-20			
					幅 (内法) w	-30			
					高 さ h	± 30			
					延 長 L	$L < 20\text{m}$ $L \geq 20\text{m}$	-50 -100		
8	1	11	4		落石防止網工	幅 w	-200	1 施工箇所毎	
					延 長 L	-200			
8	1	11	5		落石防護柵工	高 さ h	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	
					延 長 L	-200	1 施工箇所毎		

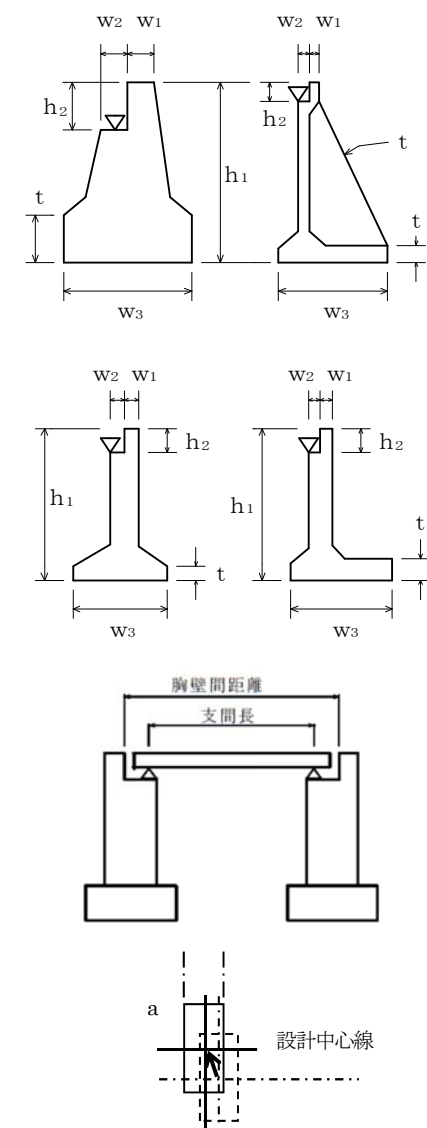
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
8 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工	高 さ h	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延 長 L	-200			1 施工箇所毎
						基礎	幅 w ₁ , w ₂	-30		基礎 1 基毎
							高 さ h	-30		
8 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工	高 さ h	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延 長 L	-200			1 施工箇所毎
						基礎	幅 w ₁ , w ₂	-30		基礎 1 基毎
							高 さ h	-30		
アンカー長	打込み l	-10%	全数							
	埋込み l	-5%								
8 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						高 さ h	-30			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
8 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	5		遮音壁本体工	支 柱	間隔 w_1, w_2	± 15	施工延長5スパンにつき1箇所	
							ずれ a	10		
							ねじれ b-c	5		
							倒れ d	$h \times 0.5\%$		
						高 さ h	+30, -20			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
8 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	± 50	幅、基準高は片側延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長80m毎に1箇所掘り起こして測定。 ※両端部2点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に 損傷を与える恐れのある場合は、他の方法 によることが出来る。	
						厚さ	$t < 15\text{cm}$			-30
							$t \geq 15\text{cm}$			-45
						幅	-100			
8 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	基準高▽	± 30	幅、基準高は片側延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所（ただし1工事2箇所以上）コアを採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に 損傷を与える恐れのある場合は、他の方法 によることが出来る。	
						厚 さ	-9			
						幅	-25			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所	
						延 長 L	-200		
8 道 路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	± 20	1 箇所 / 1 踏掛版	
						各 部 の 厚 さ	± 20	1 箇所 / 1 踏掛版	
						各 部 の 長 さ	± 30	1 箇所 / 1 踏掛版	
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	± 20	全数	
						厚 さ	—		
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	± 20	
ア ン カ ー 長	± 20	全数							
8 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30	基礎一基毎	
						高 さ h	-30		
8 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1 箇所 / 1 基	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0～+50	接続部間毎に1箇所	
						延 長 L	-200	接続部間毎で全数	
8 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ∇	± 30	1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合	
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20		
						※幅 w_1, w_2	-30		
						※高さ h_1, h_2	-30		
8 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1箇所／1施工箇所	
						高 さ h	-30		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所																			
8	道	路	編	3	橋	梁	下	部	3	工	場	製	作	工	鋼	製	橋	脚	製	作	工	部	材	脚柱とベースプレート の鉛直度 δ (mm)	w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。		
																								ベ ー ス プ レ ー ト	孔の位置	± 2	全数を測定。	
																									孔の径	0~5	全数を測定。	
																								仮 組 立 時	柱の中心間隔、 対角長L (m)	$\pm 5 \cdots L \leq 10m$ ± 10 $\cdots 10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20) / 10)$ $\cdots 20m < L$	両端部及び片持ばり部を測定。	
																									はりのキャンバ ー及び柱の曲が り δ (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。	
																									柱の鉛直度 δ (mm)	10 \cdots H \leq 10 H \cdots H $>$ 10	各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ (m)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
8	3	6	8		橋台躯体工	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。		
						厚 さ t	-20			
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10			
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10			
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50			
						高 さ h_1	-50			
						胸壁の高さ h_2	-30			
						天 端 長 l_1	-50			
						敷 長 l_2	-50			
						胸壁間距離 l	± 30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位 a	± 50			
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高			$+10 \sim -20$
							平 面 位 置			± 20
							ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 鉛 直 度			1/50 以下

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8	3	7	9	1	橋脚躯体工 (張出式)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。	
						厚 さ t	-20		
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-20		
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	-50		
						高 さ h	-50		
						天 端 長 l_1	-50		
						敷 長 l_2	-50		
						橋脚中心間距離 l	± 30		
						支 間 長 及 び 中心線の変位 a	± 50		
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計画高		
平面位置	± 20								
アーカーボルト孔の 鉛直度	1/50 以下								
<p>中心線の変位 a は、8-3-6-8 橋台躯体工と同じ。</p>									

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所			
8	道路編	3	橋梁下部	7	RC橋脚工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。	
								厚 さ t	-20			
								天 端 幅 w_1	-20			
								敷 幅 w_2	-20			
								高 さ h	-50			
								長 さ l	-20			
								橋脚中心間距離 l	± 30			
								支間長及び 中心線の変位 a	± 50			
								支 承 部 の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	+10~-20		
									平面位置	± 20		
アンカール孔の 鉛直度	1/50 以下											
8	道路編	3	橋梁下部	8	鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	
								幅 (橋軸方向) w	-50			
								高 さ h	-50			
								長 さ l	-50			

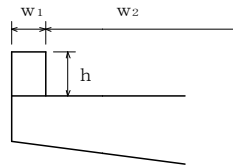
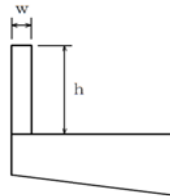
中心線の変位 a は、8-3-6-8 橋脚躯体工と同じ。

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	
						幅 w_1, w_2	-50		
						高 さ h	-50		
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	
						橋脚中心間距離 l	± 30		
						支 間 長 及 び 中心線の変位 a	± 50		
中心線の変位 a は、8-3-6-8橋台躯体工と同じ。									
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	
						橋脚中心間距離 l	± 30		
						支 間 長 及 び 中心線の変位 a	± 50		
中心線の変位 a は、8-3-6-8橋台躯体工と同じ。									
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
8	4	3	9		橋梁用高欄製作工	部 材 部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
8	4	5	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	± 5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、 支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注2) 可動支承の遊間 (L_a, L_b) を計測し、 支承据付時のオフセット量 δ を考慮し て、移動可能量が道路橋支承便覧の規格 値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10 以上			
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋 ± 5 鋼橋 $4+0.5 \times (B-2)$			
						下水 沓平 の度	橋軸方向 橋軸直角方向			1 / 100
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5			
						可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移 動量計算値の 1/2 以上			

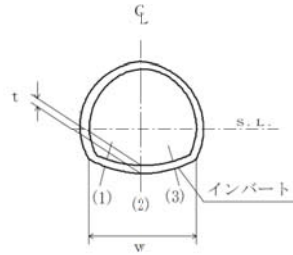
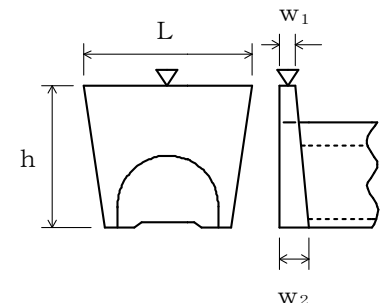
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面 及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に 肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平 面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を 勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間(La, Lb)を計測し、 支承据付時のオフセット量δを考慮して、移 動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満た すことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後 に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上			
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋 ±5 鋼橋 4+0.5×(B-2)			
						支 承 の 水 平 度	橋軸方向			1/300
							橋軸直角方向			
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差				5
						可動支承の 移動量 注3)				温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔 の削孔長	設計値以上	全数測定	
						アンカーボルト 定着長	-20 以内 かつ-1D 以内	全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)	
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	-10～+20	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。	
						地覆の高さ h	-10～+20		
						有効幅員 w_2	0～+30		
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 w	-5～+10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。	
						高 さ h	-20～+30		
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。	
						高 さ	±4		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 プ レ ビ ー ム 桁 橋 工	2		プレビューム桁製作工 (現場)	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング 後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3 箇所とする。 ℓ：スパン長	
						高 さ h	+10 -5		
						桁 長 ℓ スパン長	ℓ < 15 … ±10 ℓ ≥ 15 … ±(ℓ - 5) かつ -30mm 以内		
						横方向最大タワミ	0.8ℓ		
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長 40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。	
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—	施工延長 40m毎に断面全本数検測。	
						角 度	—		
						削 孔 深 さ	—		
						孔 径	—		
						突 出 量	プレート下面から10cm以内		

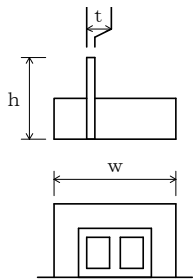
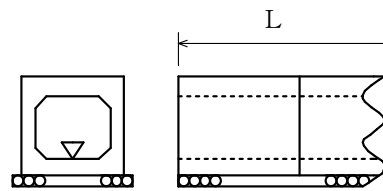
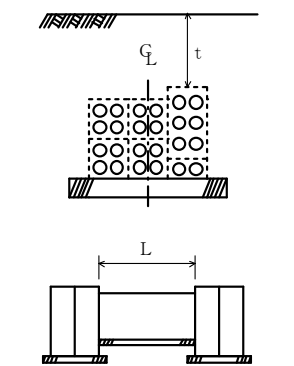
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。	
						幅 w (全幅)	-50		
						高さ h (内法)	-50		
						厚 さ t	設計値以上		
						延 長 L	—		
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	
						厚 さ t	-30		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
8 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 幅は、施工 40mにつき 1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		
						厚さ t	設計値以上			
						延長 L	—			
8 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基準高 ▽	±50	図面の主要寸法表示箇所で測定。		
						幅 w ₁ , w ₂	-30			
						高さ h	h < 3m			-50
							h ≥ 3m			-100
						延長 L	-200			

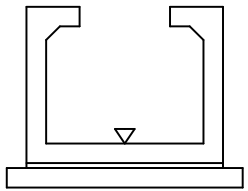
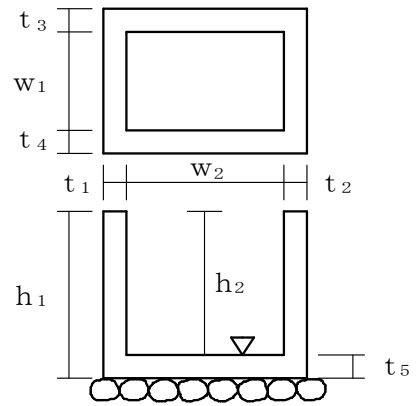
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8	6	8	5		明り巻工	基準高 (拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長 40mにつき 1 箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。	
						幅 w (全幅)	-50		
						高さ h (内法)	-50		
						厚 さ t	-20		
						延 長 L	—		

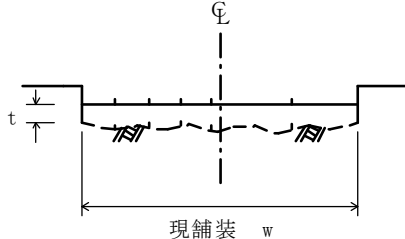
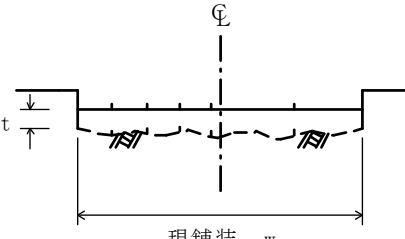
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	2		現場打躯体工	基 準 高 ∇	± 30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所 で測定。	
						厚 さ t	-20		
						内 空 幅 w	-30		
						内 空 高 h	± 30		
						ブロック長 L	-50		
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	4		カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所 で測定。	
						幅 w	-20		
						長 さ L	-20		
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版 で測定。	
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」 で測定。	

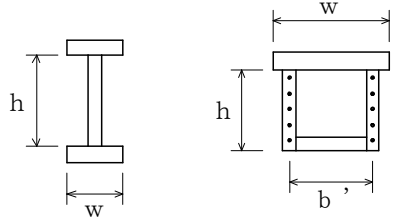
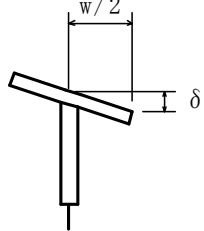
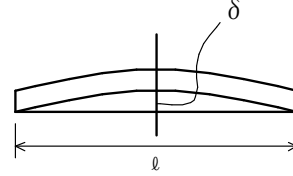
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。	
						幅 w	±50		
						厚 さ t	-20		
8 道 路 編	11 共 同 溝	7 プ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。 延長：1施工箇所毎	
						延 長 L	-200		
8 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2		管路工 (管路部)	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】	
						延 長 L	-200		

接続部 (地上機器部) 接続部 (地上機器部)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8	12	5	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基準高 ▽	±30	接続部 (地上機器部) 間毎に1箇所。	
8	12	6	2		ハンドホール工	基準高 ▽	±30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合	
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20		
						※幅 w_1, w_2	-30		
						※高さ h_1, h_2	-30		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
8 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	厚さは40m毎に切削後とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所/割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		
						幅 w	-25			
						延長 L	-100			
						平坦性	3mプロファイルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下			維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
8 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	7		路上再生工	路盤工	厚さ t	-30	幅は延長80m毎に1箇所/割で測定。厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。	
						幅 w	-50			
						延長 L	-100			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所
								鋼げた等	トラス・アーチ等	
8	16	3	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots$ $2.0 < w$	主げた・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I 型鋼げた トラス弦材</p>
								床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$	主げた	各支点及び各支間中央付近を測定。	
						圧縮材の曲がり δ (mm)	$l/1000$	—	主要部材全数を測定。 l：部材長 (mm)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
8 道 路 編	16 道 路 修 繕	22 橋 梁 付 属 物 工			橋梁耐震補強工（落橋防止装置工）	削孔長	設計値以上	全数 （曲がらない定規による測定）	
						定着長	設計値-20 又は 1D（アンカー径）のいずれか小さい値	全数 （超音波探傷器による測定）	

單位：mm